

課題名	岩野川における地域と連携したかわづくりについて			
所属	九地整 菊池川河川事務所 工務課	発表者職氏名	国土交通技官	村上 幸司
河川名	菊池川水系支川岩野川 一級・二級・準用	工期	平成18年度	
所在地	熊本県 山鹿市 石～津留地先	岩野川	1.8～4.8km付近	左岸・右岸
セグメント	2-1	河床勾配	1/450	計画高水流量(確立年)
				850m ³ /s(1/100)

キーワード・キーセンス

- ・地域連携によるかわづくり
- ・流下能力向上
- ・水生生物の生息環境向上



設計段階における検討会の状況



施工段階における検討会の状況



「瀬」と「淵」を復元



分散型落差工

【事例概要】

◆目的

・菊池川水系支川岩野川では、平成17年7月10日に1時間80mmを越える集中豪雨により、計画高水位を越え、山鹿市では避難勧告が発令される事態となった。幸い溢水被害は発生しなかったものの、この出水により内水による冠水被害が発生した。

この出水をうけて当事務所では、流下能力向上のために岩野川の河道掘削を行うこととしたが、従前より岩野川は地域住民による「岩野川を守る会」が発足する等、かわづくりに対する関心が高く、また地域住民の中には、これまで行われてきた河川改修工事により、川本来の流れが壊されている等の意見があることから、このことを鑑み、双方の合意形成を図るには、地域の代表者等の声を取り入れた形でかわづくりに関する検討を行い、河道掘削に着手する必要がある。

よって今回、河道掘削を行うにあたり、地域と連携したかわづくりを行い、流下能力向上とともに河川環境向上を図ったものである。

◆実施内容

1. 設計段階

①二度にわたり「岩野川かわづくり検討会」を開催し、地域住民との合意形成に努めた。

2. 施工段階

①流下能力向上のため、河道掘削を行った。

②河道内整正(掘削・押土)により、瀬と淵の復元を図った。

③現地発生石を利用し、河川環境維持のための施設を設置した。

④施工が概ね完了した時点で、「岩野川かわづくり検討会」を再度実施し、施工状況説明及び確認を行った。

3. 施工後

①本年出水後の河道状況調査を行い、施工直後との比較を行った。

②本年度中に水生生物調査等のモニタリングを実施する予定。

◆ポイント

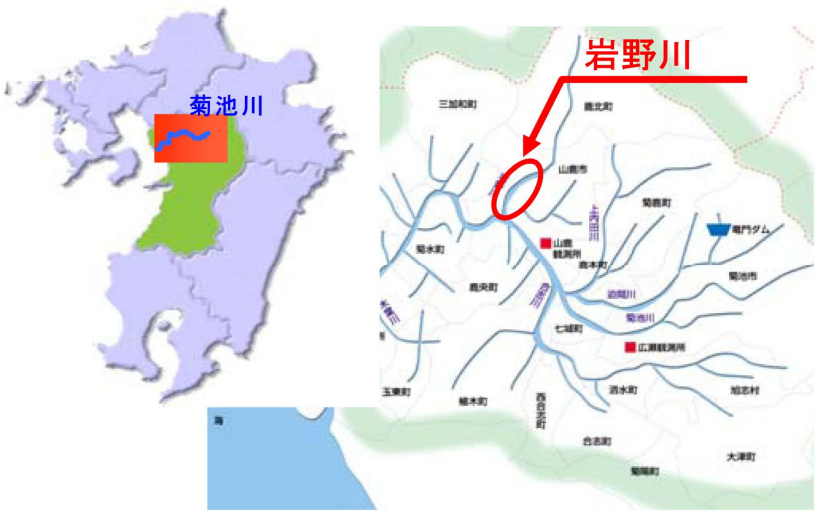
・地域の代表者及び関係者からなる「岩野川かわづくり検討会」を実施し、地域の声を河道掘削計画に取り入れることで、岩野川の特性を活かしたかわづくりを実現した。

・河道内の土砂を掘削・押土し、また発生石を利用した施設を配置することにより、限られた予算内で効率的に瀬と淵の復元及び環境維持・促進を図った。

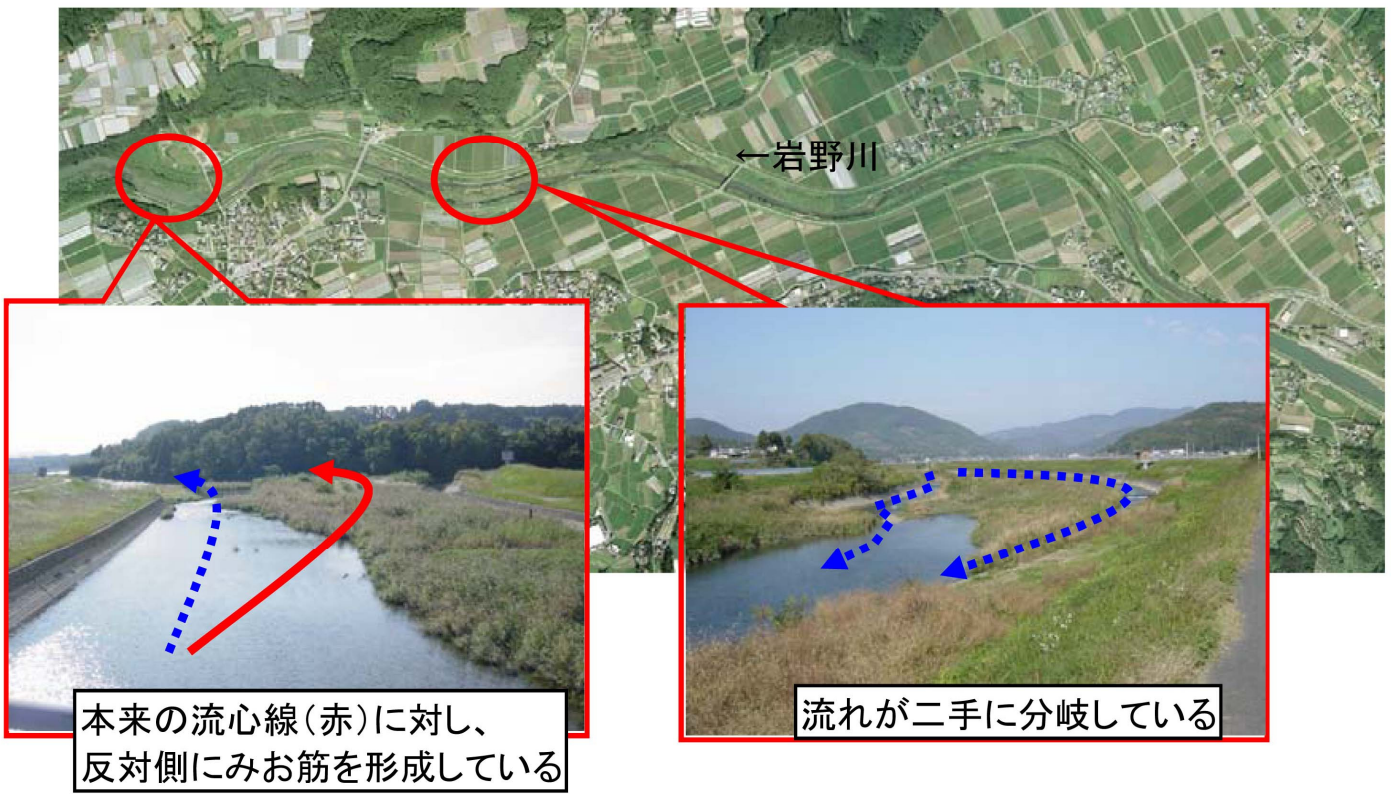
発表者氏名	村上 幸司	所属	九地整 菊池川河川事務所 工務課
連絡先電話番号	0968-44-2171		

◆補足資料

菊池川水系岩野川は、熊本県北部を流れる一級河川菊池川のほぼ中流域に位置し、山鹿市内を流れている支川である。その岩野川では、平成18年7月10日に、1時間に約80mmを観測する集中豪雨に見舞われ、水位は急激に上昇。ついにはH.W.Lを越え、山鹿市は避難勧告を発令する事態となった。幸い洪水被害は発生しなかったものの、広域にわたり内水被害が発生した。



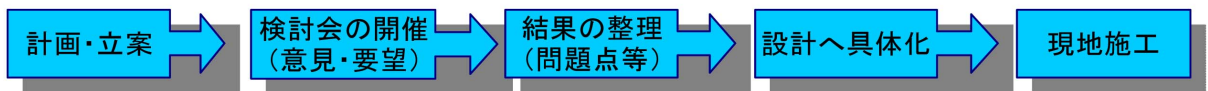
以前の岩野川は、上流から細砂を含む大量の土砂供給が原因で土砂が堆積し、断面不足を招いていた。また、過去の河道改修工事等の影響で不自然な蛇行を形成しており、そのままの状態では土砂堆積が起こったため、流下能力不足に加えて生態系上にも影響を及ぼしていた。



本来の流心線(赤)に対し、反対側にお筋を形成している

流れが二手に分岐している

これらを解決すべく、河道掘削計画の検討を行うこととしたが、検討を行うにあたり、地域との合意形成を図るため、下記の手順を進めた。



◆補足資料

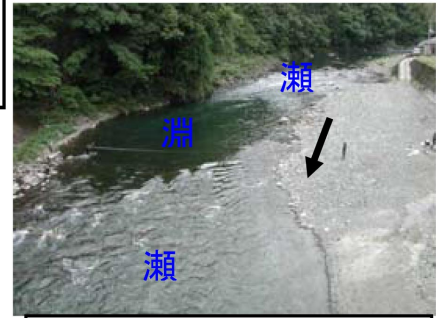
岩野川周辺地域は、「過去の河道改修工事により川の流れが壊されている」等の意見や、今回の出水被害により治水に対する不安の増加、また従前より「岩野川を守る会」が発足するなど、岩野川に対する関心が非常に高いことが伺い知れるため、河道掘削を行うにあたり、「岩野川かわづくり検討会」を開催し、地域の声を取り入れた形で計画を行う必要があった。

検討会の目的としては、まず基本的な河道掘削計画の方針説明を行い、計画方針を認識してもらう事、計画を理解したうえで地元の意見・要望等を出していただく事とし、そこで出された意見・要望等については、問題等を整理し整備計画に反映させていくこととした。



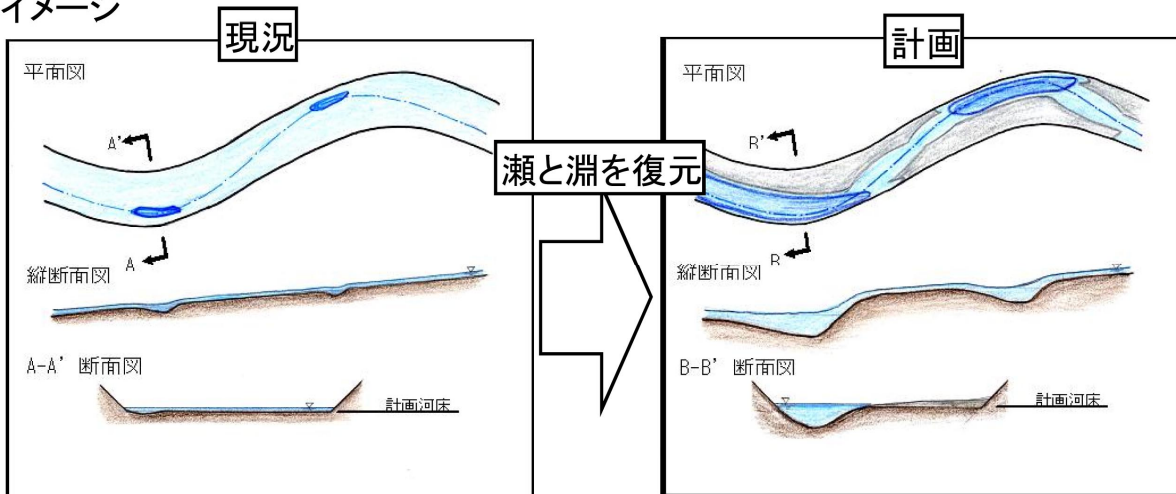
計画段階において検討会を開催

地域の意見・要望
・魚が棲む川へ復元
・河道内の石の保全・利用



理想的な瀬と淵(イメージ)

河道計画イメージ



また、施工時において、専門家を交えた形で施工協議を実施し、かわづくりのポイントや分散型落差工の施工指導などをいただきながら、施工を進めた。



かわづくりのポイントについての協議



分散型落差工の施工指導

＜代表事例の評価すべき点＞

- ・地域の声を取り入れることで、治水能力向上と河川環境向上の両立を図ることができた。また、このような地域と一体となった事業を展開することで、よりよい信頼関係を築き上げることが出来たのではないかと感じている。
- ・河道内を掘削するだけでなく、押土することで掘削土砂の排出量を抑えながら滞筋の変更を行い、瀬と淵の復元を図った。また、河道内の石を有効利用し、河川環境維持のための施設を配置するなど、限られた予算の中で高い事業効果を発揮できた。

＜代表事例の改良すべき点＞

- ・施工完了から半年余りしか経過していないため、出水等による河道の変化状況などを継続的にモニタリングする必要がある。
- ・上記調査結果によっては、水制などの施設配置を行う必要があると思われる。
- ・水生生物調査についても、今後実施していく予定である。

＜代表事例に選んだ理由＞

- ・地域の意見を取り入れた形で河道掘削計画を行い、その結果、流下能力向上と河川環境向上の両立を図ったことから、今回代表事例として選んだ。